

大和市乳がん検診を受ける方へ

- 乳がんは、日本では女性のがんの中でも罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
市が実施している乳がん（マンモグラフィ）検診は、死亡率を減少させることが科学的に証明された有効な検診です。
- がんは、発生してから一定の大きさになるまで時間がかかる場合もあれば、急速に進行する場合もあります。大切な命を守るために、40歳以上の女性はマンモグラフィ検査を、30～39歳の女性は超音波検査を定期的に受け、自己触診で乳房の変化を見逃さないようにしましょう。
- しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は、がん検診を待たずに医療機関を受診し、医師に相談してください。
- 検診で「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けてください。
がんは、症状が出るまでに時間がかかる場合がほとんどです。自覚症状がなくても精密検査を受けることが大切です。
- がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、死に至らないがんが見つかることがあり、結果的に必要性の低い治療を受けることになる場合があります。しかし、乳がんで亡くなることを防ぐメリットの方が大きいことが証明されています。そのため、検診を定期的に受診すること、精密検査を受診することが大切です。
- マンモグラフィ検査後の精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などです。
マンモグラフィ追加撮影：疑わしい部位を多方面から撮影します。
乳房の超音波検査：超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。
細胞診、組織診：疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、詳しく調べます。
- 超音波検査後の精密検査は、医師が必要と判断する検査となります。
- すべてのがんが、がん検診で見つかるわけではありません。検査では見つけにくいがんもあります。
- 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は市役所へ報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合、精密検査結果は、最初に受診した医療機関にも共有されます。
- マンモグラフィ検査は、医療機器の埋め込みがある場合には、受けられないことがあります。事前に主治医にご確認をお願いいたします。

この用紙はお持ち帰りになり、検診結果が出るまで保管してください。

大和市医療健康課

〒242-8601 鶴間1-31-7（保健福祉センター4階）

☎ 046-260-5662（直通） FAX 046-260-1156